

## 学位論文審査の結果の要旨

1. 申請者氏名	大西 慎也
2. 審査委員	主査：（兵庫教育大学教授）米田 豊 副主査：（兵庫教育大学教授）森 秀樹 委員：（兵庫教育大学教授）原田 智仁 委員：（鳴門教育大学教授）田村 隆宏 委員：（兵庫教育大学教授）吉水 裕也
3. 論文題目 小学校社会科学習における概念獲得過程の「思考」の評価  — 「認知図」による空間的図式の可視化を手立てとして —	
4. 審査結果の要旨  論文提出による学位申請者 大西慎也 から申請のあった学位論文について、兵庫教育大学学位規則第16条に基づき、下記のとおり審査を行った。  論文審査日時：平成29年2月6日（月） 14：30～14：30 場所：兵庫教育大学 教育・言語・社会棟7階 702教室  （1）学位論文の構成と概要 序章 本研究の目的と方法  第1章 わが国の社会科における「思考」の評価 これまでの社会科教育学における「思考」の研究成果から、社会科における「思考」を、「分かる」過程において説明的知識や概念的知識を習得するために働く行為と定義した。そして、これまでの評価研究や市販の業者テスト、国立教育政策研究所の評価問題を分析し、「思考」過程を可視化することに「思考」の評価研究の課題があることを明らかにした。  第2章 小学校社会科における「思考」の成果としての概念獲得 小学校社会科において、子供が獲得している概念は、空間的図式であることを明示し、空間的図式は、地理的スケールに応じた概念であることを明らかにした。空間的図式は、空間軸、時間軸により形成されていることを論じ、地理的事象や歴史的事象にあてはめることで、具体像を明らかにした。	

### 第3章 「認知図」による概念獲得過程としての「思考」の可視化

第2章で論じた空間的図式を、可視化するための手立てとして図式化について考察した。先行研究から「概念地図法」「ウエッピング法」の課題を明らかにし、「認知図」を開発した。「認知図」とは、子供が獲得した概念である空間的図式を、円形に知識の構造に基づいて表現させたものである。新たな概念を獲得した際に、「認知図」の情報をどのように活用しているのかを表現させることで、「思考」過程を可視化することが可能になることを明らかにした。

### 第4章 小学校社会科地理学習における概念獲得を意図した授業実践と「思考」の評価

「認知図」を組み込んで「思考」の評価を行うことを意図した地理学習として、小学校第5学年「日本の産業」の授業を開発、実践し、「思考」の評価を行った。子供が概念を獲得していく過程が、子供が作成した「認知図」により詳細に論じられており、「認知図」を活用することで、概念獲得につながる事が明らかになった。また、「思考」を評価するために行った新たな社会事象の探究過程では、「認知図」を有効に活用することで子供の「思考」を促し、さらには「思考」過程を可視化できることを明らかにした。

### 第5章 小学校社会科歴史学習における概念獲得を意図した授業実践と「思考」の評価

「認知図」を組み込んで「思考」の評価を行うことを意図した歴史学習として、小学校第6学年「大昔の人々のくらしと国の統一」の授業を開発、実践し、「思考」の評価を行った。縄文時代と弥生時代の「認知図」を一単元で二度作成することにより、概念が獲得される過程が明らかになった。さらに、縄文時代と弥生時代の「認知図」を活用して、新たな社会事象を探究することにより、「思考」を可視化できることが明らかになった。

### 第6章 小学校社会科学習における「思考」の評価問題の開発

第1章で論じた評価問題の課題の克服を意図して、評価問題の開発を行った。第4章で開発、実践した小学校第5学年「日本の産業」のまとめとしての評価を行った。特に「思考」を問う問題では、それまでに獲得した概念と、評価問題で示された初見の資料を組み合わせ、課題を探究できる内容となっていた。また、評価についても、対象となった児童全員の根拠を明示し、子供の「思考」について測定可能な方法が明らかになった。

さらに、第4章で示した、「認知図」による授業での「思考」の評価と、評価問題による「思考」の評価を比較し、個人思考と集団思考による結果の差異についても明らかにすることができた。

### 終章 本研究の成果と課題

終章では、「認知図」の開発により「思考」の評価が可能となった点を総括するとともに、今後の課題を示した。

## (2) 審査経過

本研究は、社会科において子供が獲得する概念の構造を明らかにし、授業実践とその分析、検討を行うことで、小学校社会科における子供の「思考」の評価を明確に行う方略を開発することを目的としたものである。

本研究の成果の中核は、「思考」を評価する方略として「認知図」を開発したことである。この点は、先行研究の課題を克服しており、新規性が高い研究であると評価できる。また、社会科において獲得される概念を空間的図式であるとし、それが地理的スケールに依拠していることを明らかにし、「認知図」として表現する方法を開発した点に高い独創性がある。さらに、「認知図」を組み込み、概念を獲得していく過程を詳細に見ることにより「思考」の評価が可能になることを明らかにした。

以上のことをふまえ、新たな社会事象を探究する評価問題を開発、実践し、「認知図」による授業における「思考」の評価と比較したことにより、子供の「思考」を評価する方法を複数の視点で行うことを可能とした。このことは、学習状況調査等の評価問題の改善に資する可能性のある、発展性の高い研究であると評価できる。

これらの点から、本研究は、理論研究にとどまらず、授業実践に資することを目指したものであり、社会科授業実践の改善に大きく貢献するものであると高く評価できる。

## (3) 審査結果

以上により、本審査委員会は、大西慎也の提出した学位論文が博士（学校教育学）の学位を授与するのにふさわしい内容であると判断し、全員一致で合格と判定した。